第 2011-05 号

恵みと真理のニュース

2011 年 10 月の一次　恵みと真理教会
大韓民国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　うちの家族を救ってくださり、私を治療してくださった神様に感謝します。

私は中国同胞でお金を儲けるためにずいぶん前に家族と一緒に韓国に来ました。私と娘は資格条件が揃えていましたので難しくなく韓国の永住権を獲得しましたが、中国人の夫は永住権を獲得することが難しかったです。
夫は永住権獲得のためブローカーにお金を払いましたがたまされました。韓国の状況もしらず準備もなく仕事を得ようとしましたので、いろんな詐欺事件に落ち込まれました。その衝撃で私は心に大きな傷を受けて、高血圧や神経衰弱や憂鬱症が生じました。夜眠ることができず、食べることもできず、時々むなしいが見えるほど、心も体も衰えていきました。私の状態があまりにもひどくて娘が勤めていた会社を辞めて私の面倒を見てくれました。家族たちは、あちこち探し回して私の病の治療に役立つことをすべてやってくれました。
そうするうちに巫女にも訪ねることになりました。巫女はお祓いをすると良くなるとして大金を払いましたが全然治らなかったのです。続くなる詐欺や物質の損害の原因で私の症状はますますひどくなりました。その当時には、巫女に行くことがあやまつことになるのもしらず、お金をたまされたことだけ悔しく思いました。
その間精神と物質の困難にぶつかりながら、家の近所に住んでいた『恵みと真理教会』の首席区域長が私に伝道していたことが思い出されました。その方に連絡をしてみようかと迷っていた頃治療のために訪れた韓医院で、あの首席区域長を再び会うことができました。今まで苦しかった状況を話したところ、教会に行って礼拝を捧げるように、私を導いてくださいました。こうして2010年11月からうちの三人家族は首席区域長に連れられて、『恵みと真理教会』を通い始めました。娘と一緒に首席区域長に連れられて熱心に礼拝に出席しました。主日礼拝と水曜礼拝を2回ささげました。月曜祈祷会、金曜祈祷会はもちろんエステ祈祷会にも参席して礼拝し祈ることに力を尽くしました。私の過ちを後悔し、心も体も柔らかい私を大胆かつ健康に変化させていただくことを切に祈りました。神様の恵みによって徐々に心の安らぎを取り戻しました。夜もよく寝ることができ、高血圧も正常血圧に戻って、血圧薬を止めることができました。むなしいが見えた現象もなくなりました。一人では何のこともできなく、無気力で不安定だった私が変わりました。
神様の恵みで、今は一人でも日常生活ができるようになりました。長い間、私のそばで看護しながら面倒を見てくれた感謝の娘も今は就職して熱心に働いています。娘はいつも告白しています。˝イエス様を信じたあとからは幸せで働くことも苦しくなくストレスも全くありません。と。また長い間、永住権がなくて、いつも不安に震えていた夫も、祈りながら進行していた滞在権の問題がうまく解決されて、働くことができました。すべてが神様の恵みです。
大勢の人々が私に欺くばかりだった過去には、どのくらい苦しく不安で恨みがあったかわかりません。いつもそんな気持ちで生活をしたため、いろんな種類の病が生じましたが、今は人ではなく、神様を信頼するようになって平安と喜びで暮し、健康な生活を暮らすようになりました。夫も神様の助けで永住権を獲得してうちの三人家族が堂々と一緒に暮らすようになりました。過去、たまされて物質的な損失で苦痛の時間を過ごしましたが、それをきっかけで神様の前に行く機会を得るようになったことを考えると感謝ばかりです。現在、私たち家族みんながイエス様を信じて、お互いに愛し、幸せに暮らすことになったのが夢のようです。
まだ小さい信仰ですが、何よりも、生ける神様を存分に礼拝し、祈ることができるのが私の最大の喜びであり幸せです。時々心が弱くなり、体が柔らかくなったりしますが、そのたびに力の神様、全知全能の神様に子供のような気持ちで祈ります。また、教役者先生たちが私のためにお祈りしてくださいます。そうしたら、いつの間にか神様の力をいただき、私の心を強く捕まえてくださいます。私たち家族を救ってくださり、わたしの病気を治療してくださった神様に感謝と賛美と栄光を捧げます。いつでもどこでも信仰生活を熱心にして私を治療してくださり、救ってくださった主様を自慢しながら暮らします。

［信仰コラム］　小ぎつねを捕らえよう

˝我々のために狐を捕らえよ．　ぶどう園を荒す小ぎつねを捕らえよ。われわれのぶどう園は花盛りだから˝　（雅歌２：１５）

人は一生の間に大小の痛みや喪失を数多く経験し、悲しんで涙を流します。ところが、悲しみそれ自体はたいしたことはないとしても、悲しみの後に続く被害は大変なことです。極限の悲しみや、持続される悲しみは、ブドウ園を荒す小さなキツネのように私たちの生活を疲弊させて状況を悪化させます。悲しみと呼ばれる小さなキツネがブドウ園を損なわないようにどう対処していくかについて、聖書は私たちに貴重な知識と知恵を提供しています
最初に、落ち込んで悲しげにすることに執着するのではなく助けの神様が共におられることを意識する必要があります。宗教改革者マルティンルターは、脅威と難関に直面して憂鬱な時は妻が彼を慰め、励ましました。憂鬱な気分を晴らすために、ある日、旅に出てきた彼が戻ってからも変わらず憂鬱な顔ををしていました。妻は喪服姿で泣きながら、˝あなたの憂鬱な顔を見ていると私たちの神様が死んだと違いないので、このように喪服を着ました˝。と言いました。ルターは、心の奥深くに、反省して再び力を出して、仕事を大胆に進めていました。主を待ち望む者は新しく力を得ます。
.第二に、目の前に起こる現象だけ執着するのではなく、信仰の目で遠く眺める必要があります。ヤコブが特別に愛する息子ヨセフを、他の子たちが憎んだあまり、エジプトに下がる商人に売ってからはヨセフの彩り服に雌山羊の血を塗れてヤコブに見せました。ヤコブはヨセフが猛獣の餌食になったと判断してすごく悲しみました。ところが、結局を見ると、エジプトの首相になったヨセフの招きで、ヤコブ一族はエジプトの王に特別待遇を受けて油性ゴーセン地に定着するようになったのです。ヤコブは神様がくださった約束によって、信仰と希望の窓を介して、より遠く眺めることができたとならば、これほど極端な悲しみで心と体を損なうことはなかったでしょう。聖徒は、どのような境遇でも、聖書に記録された数々の約束に基づいて、信仰と希望の目で辛く悲しい現実を超えて予備された幸いな明日を望むことができます。
第三に、最善を尽くした後は、最終的な結果を謙虚に受け入れ、神に感謝しなければなりません。私たちが生きながら、直面する現実の中にはこれ以上の変化を期待することができない状況があります。完結された状況や変化することができない状況につきましては、神の主権的決定として受け入れ、これ以上その事に執着しないで、悲しみが長く留まらないようにするのが信仰的な態度です。神はこのような決断と態度が正しかったことを証明してくださいます。
第四に、悲しみを消滅させ、心の安定と平穏を回復させる非常に効果的な方法は、祈りと賛美と神の御言葉を暗唱することです。これは、先に信じた信仰の偉人たちが実験し、その有効であることを証明したものです。私たちもそれを体験していますが、時には直面した現実と問題にとらわれて、この卓越した対策を忘却してしまうことがあります。これを実践して適用するようにお互いに悟らせる必要があります。 聖徒の皆さんが私たちの主イエスキリストの中で約束の御言葉を固く信じて生きるとすればたとえ悲しみが来ても長くとどまらず、消えてしまいます。そして、主様が悲しみを喜びに変えてくださいます。。˝夜はよもすがら泣きがなしんでも、朝と共に喜びが来る。あなたは私のために、嘆きを踊りに変え，荒布を解き，喜びを私の帯とされました。˝の御言葉があなた方の証になります。という言葉が皆さんの証となるでしょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

福音の七つの色

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

我々が信じ伝えている福音は聖書に啓示てある福音です。福音は文字のように幸の消息です。
本日の聖書は**『兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。あなたかたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。あなたがたはこの福音によって救われます。』**
福音を信じる人が得られる救いは罪許され義人になる、神の子になる権勢を受ける、永遠の命を得、天国で永久に生きる。命の復活を約束されるなどです。ですから、福音より美しいく、喜ばしい恵まれたお伝えはありません。
光はどんな色でしょうか。との質問に科学的に接近した最初の学者は＜アリストテレス＞でした。彼は光の色を＜純粋な白色＞と答えた。
こんなの光に対して定義したのは不変たる一つの真理のように固まって 17 世紀後半まで続いてきました。それから、１６７２年にやっと＜ニュートン＞が光の色の異なった理論が提案されていました。
ニュートンは白色に知っていた光がプリズムへ通過させる我らの目で見える色は赤、柑子色、黄色、緑色、青色、藍色、紫色などの光を７つの虹色に分散されていることを発見しました。
ここで、私が七つの色を話す理由は福音の内容を区分して説明するためです。皆さんの理解や記憶をたやすい助けのためです。
プリズムを通過した光を分散させて輝く虹色を見ることが出来るように、福音もその中にある特徴的な内容を分けて見れば７つのきらびやかな内容で分けられます。

第一、我々が信じて伝える福音は恵みの福音です。

バウル使徒は**『しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません』**（使徒行伝２０：２４）と言っていました。
福音とはキリストイエスによる恵みです。神の怒りと裁きを受け滅びる罪人が、罪許され永遠の命を得るのはイエスキリストによるのです。＜神の恵み＞＜主イエスキリストの恵み＞とは人が恩返し出来ない無代で与える賜物です。その恵みの大事さと美しいさはあまりにも大きく驚くべきで受ける人に溢れる喜びと感激を感じさせるのです。
ローマ３章２３節-２４節で
『人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト.イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。』と言っていました。

第二、我々が信じ伝える福音は愛の福音です。

福音は人間に向かえる神様の愛の話です。
ヨハネ３章１６節には、**『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』**と言っていました。
神は滅びる罪人を生かせるため独り子をお遣わしになりました。イエス様は父のみむねに従い罪人の罪贖いのため十字架に附け死にました。言葉だけの愛ではありません。大いなる犠牲を行った愛です。真に不思議で驚くべきな愛です。その愛は何の差別もない愛です。イエスキリストを信じる者は誰でも義の者になります。
ローマ３章２２節は**『すなわち、イエス.キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。』**と言っていました。キリストの愛は推しはからない愛です。キリストイエス中にいる神の愛はその何者でも引き離せないし、誰でも引き離せない愛です。ローマ３章２２節は
『わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト.イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。』と言っていました。

第三、我々が信じ伝える福音は力の満ちる福音です。

イエス様が福音を伝えるところには常に力が示されている**『イエスは□霊□の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた』**（ルカ４：１４~１５）とおしゃいました。イエス様が福音を述べるとき病気の癒し、悪霊の追い出される奇跡と不思議の行いが多くありました。弟子たちも福音を述べる時も主の御霊様が共に働く奇跡を通して語りを確証して下さいました。**『たの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。』**（使徒行伝１；８）とおしゃいました。福音に啓示した聖書の語りはかみの語りで生きてる運動力もあります。

第四、我々が信じ伝える福音は癒しの福音です。

神は癒しのお方です。神は荒れ野を行進するイスラエル民を導くモーセに**『わたしはあなたをいやす主である』**と啓示しました。
『我が名を畏れ敬うあなたたちには義の太陽が昇る。その翼には癒す力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように躍り出て飛び回る。』（マラ記４：２）とおしゃいました。イエスキリストは偉大な医者でした。新約聖書を読むと病ものを癒す働きがたくさん記録してあります。
『夕方になると、人々は悪霊に取りつかれた者を大勢連れて来た。イエスは言葉で悪霊を追い出し、病人を皆いやされた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担った。』（マダイ８：１６~１７）と記されていました。イエス様は昇天の直前弟子たちに、福音を伝えるためには病気の者のため祈って働きなさいと命じました。
『一方、弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはっきりとお示しになった。』（マルコ１６:1-２０）とおしゃいました。

第五、我々が信じ伝える福音は天国の福音です。

福音の中心メッセージは天国です。イエス様の公的な働きの初めから**『悔い改めなさい。天国が近ついて来た』**と告げました。イエス様は天国の話しを様々な方面から語りました。ナザロと金持ちの話で天国と地国を教えました。天国の例えも多様で語っています。
歴史の終末に関して予告しまして**『そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る』**（マダイ２４；１４）＜御国の福音＞とおしゃいました。ヨハネ黙示録には天国の世界を詳しく映しています。

第六、我々が信じ伝える福音は在臨の福音です。

福音はイエスキリストの在臨と言う不思議で驚きな約束があります。イエス様が昇天する時弟子たちは何か言い表し難い心で皆、見上げていました。二人の御使いが彼らの側に立て話した。**『ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。』**（使徒行伝１：１１）とおしゃいました。2 千年前、イエス様がこの世に来られた時は人間の罪を贖うためでした。しかし、再び来られるのは罪のためではなく、主の来臨を願い求め待っている聖徒たちのため来られます。不信仰には恐れるべきな裁きの日になりますが、聖徒にはキリストの来臨は救いの完成になる待ちかねる栄えの日になるでしょう。誉れや報いや冠をお与えになるでしょう。

第七、我々が信じ伝える福音は復活の福音です。

復活は使徒たちの説教にあって重心メッセージでした。復活を信じなく伝えれない人はクリスチャンではない。人間の死は罪から因ります。イエス様は人間の罪を負い死んでお墓に葬られました。しかし、三日目に復活して我々の罪を成功的に完全で贖われたのです。復活した体の姿と状態に関して聖書に記録した内容を整理して見ます。復活した体は腐らない体、強い体、光栄である体、神霊な体です。天に属した形を被り永遠に死なない完全な体です。復活の体は＜自己独自性＞では連続性を持っていますが、＜体の存在様式＞にあって連続性はありません。イエス様は復活の初穂です。その次は＜キリスト中に居られる者＞です。キリスト中に居られる者の復活は、キリストの在臨の時起ります。**『すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。』**（テサロニゲ前４：１６~１７）と言っていました。
我々が信じ伝える福音は聖書に示された福音です。イエスキリストによる福音です。この時間は我々が信じ伝える福音を七つに分けて話して上げました。自分が信じる福音をよく整理した知識を持って確かな理解と信仰を持たなければなりません。光の中に七つの虹色が存在するように福音も似ていてその中には恵み、愛、権能、治療、天国、在臨、復活と言うきらびやかな内容が含まれてあります。愛する皆さんは恵みの福音、愛の福音、権能の福音、癒す福音、天国の福音、在臨の福音、復活の福音を確かに信じ、この福音を述べ伝えるために働く幸福や喜びを十分味わいながら生きるように祝福致します。アーメン